



# 学校だより

1月号

横浜市立大道小学校

令和6年1月9日



← 学校 WEB ページはこちらから

\*学校ホームページ(学校日誌)を毎日更新しています。ぜひご覧ください。

校長 加藤 和之

## 「子どもたちに愛される図書館に」

元旦に起きた地震は、能登半島とその周辺地域に甚大な被害をもたらしました。亡くなられた方に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された方々に笑顔が戻るよう、心からお祈りいたします。

明けましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしく願いいたします。昨年末は、大道小にも、インフルエンザの波が一気に押し寄せてきたようでした。今年も大きな怪我や病気がなく、みんなが元気に過ごせる1年であってほしいものです。

さて、大道小の中で、素敵になった場所があります。それは「図書館」です。

まずは「環境面」です。以前は、壁や柱の塗装がはがれかけていました。塗装をし直したいと教育委員会に申請をしても、予算面の問題から、なかなか実現は難しいだろうということでした。しかし、用務員の二人が「それなら、どうにか自分たちでやってみよう。」と、取り組み始めました。まずは、はがれかけたり、ひびが入ったりしている塗料を完全にはがす作業から始まります。匂いやほこりで大変だったにも関わらず、保護者ボランティアの方々も力を貸してくださいました。その後、ペンキで丁寧に塗ること数日、見違えるように綺麗に仕上がりました。何だか図書館全体が明るくなったように感じました。ずっと気になっていたことなので、とても嬉しく思いました。

また、ユニークなコーナーが登場しました。今は、クッション性のあるラグマットが敷いてあるコーナーになっています。子どもがリラックして、思い思いの格好で読書ができるようにするアイデアです。読書週間には、その場所にアウトドア用の「テント」が設置されていました。テントの中で本を読むなんて何だかワクワクするというので、子どもたちに人気だったようです。

新しく「りんごのたな」も設置されました。これは、「誰にとっても読みやすい本」に対する認識を高めるために、スウェーデンで生まれた取組です。この棚には、障害のある人にも読みやすい本(LLブック)や布の絵本、点字図書など、「見る」「触る」などして読めるよう、工夫されている本が並んでいます。この取組は、すべての人がお互いの人権と尊厳を大事にしながら共に生活していく社会(インクルーシブな社会)を目指すことの大切さを感じることにもつながります。既に何校かからの視察があったり、冊子に紹介されたりしています。

子どもがつくった作品も展示されています。今は、1年生がおすすめる本と、その本を紹介する自作の「おはなしカード」が並ぶコーナーができています。カードを読んだ子が「その本を読みたいです。」と思った時に貼るシールも用意されていて、書いた子にとってだけでなく、それを読んだ子にとっても「学び」になるような手立てがありました。

これらの工夫は、学校司書だけでなく、図書ボランティアの皆さん、読み聞かせ「ヨムヨム」の皆さん、大道サポート隊のご協力によるものです。図書館の充実は、子どもたちに読書習慣や情報収集をする力を身に付けるだけでなく、情操面でも良い影響があると思われます。これからも、保護者の皆様とも協力しながら、子どもたちに愛される図書館づくりを進めていけたらと思います。